

## 論文内容の要旨

報告番号		氏名	洪基朝
The state of mental health among male and female medical students: A preliminary study  (和訳) 医学生におけるメンタルヘルスの男女差の研究			

### 論文内容の要旨

背景:医学生は教育として人の死を扱うだけでなく、卒業までの長いプロセスや進級過程におけるさまざまな試験など多くのストレスを受けることが知られている。医学生の精神面のサポートの必要性は年々増大しているなかで、男女間で精神疾患の罹患率の違いなどは知られているものの、日本における医学生のメンタルヘルスの性差を調査した研究はない。そのため、今回我々は、奈良県立医科大学医学生のメンタルヘルスの性差の違いを精神健康調査票(GHQ:General Health Questionnaire)－30を用いて評価することとした。

方法:2011年から2019年まで奈良県立医科大学の精神科臨床研修に参加した816人に対してGHQ－30を用いてアンケート調査を行った。GHQ は1970年代に英国モズレー精神医学研究所のD.P.Goldberg博士によって開発された質問紙法による検査法で、主として神経症者の症状把握、評価および発見に極めて有効なスクリーニングテストである。2～3週間前から現在までの健康状態で精神的・身体的問題があるかどうかについて把握し、質問内容は日常的、身近なものとなっており、人種、宗教、文化、社会が異なっても有効なテストであるといわれている。短縮版GHQ－30・GHQ－28(それぞれ30項目・28項目)(Goldberg&Hillier,1979)とともに、日本語版の妥当性・信頼性が確認されている(大坊・中野,1987)。

解析:男女間の人口統計学的特性とGHQ－30の分布の違いは、スチューデントt検定を使用し分析した。男性間の有病率を評価するために、カイ二乗検定を使用し分析した。データは、Prism version 8を使用し、有意水準を0.05に設定し分析した。

結果:有効回答は94.1%であった。参加者の内訳は男性医学生が587人であり、平均年齢が 24.1±2.9歳、女性医学生が230人であり平均年齢が 23.6±2.0歳であった。今回の研究において、女性医学生は男性医学生と比較してよりストレスを感じていることが分かった。また、ハイリスク群といわれている7点以上の割合においても、女性医学生は男性医学生と比較して高い割合であった。

結論:今回の研究において、女性医学生が男性医学生と比較してよりストレスを感じていることが分かった。今後の課題として、より早い段階で自身の精神状態を把握できるように、適切なスクリーニングを実施することや、環境調整や精神的ケアを含めた医学教育の必要性が示唆された。